

当別町亜麻生産組合 組合長 津崎 弘樹さん

Tuzaki hiroki



亜麻畑にて(6月23日)



亜麻の花は7月上旬から中旬にかけて見頃を迎えます。

北海道では明治初期から昭和40年頃まで繊維を採取する目的で栽培されていた亜麻ですが、化学繊維の登場によりその姿を消してしまいました。しかし、当別町で平成13年より栽培試験が開始され、現在、町内4軒の生産者が亜麻栽培に取り組んでいます。

亜麻栽培のきっかけは？

誰も作っていない、変わった作物を生産してみたいと思っていました。我が家の畑は水はけもそれほど良くないため、作物の生育が悪く悩んでいた時期がありました。ちょうどその頃、前組合長から亜麻の話聞いて「これは面白そうだな。」と思ったのが始まりで、私自身は平成15年から亜麻の栽培に取り組むことにしました。何も分からない状態から全て手探りで栽培をしていたため、最初の3年間は全く収量が上がりませんでした。

苦労話と嬉しい話

雑草との戦いです。完全無農薬で亜麻を栽培しているので、他の作物に比べて除草の手間は数倍かかりますね。農機具を使用して雑草の除去も行いますが、7月の開花から収穫する9月までは週に一度のペースで完全に人の手でなければなりません。そこが一番の苦労話です。嬉しいことは、何と言っても開花した時の畑一面に広がる光景を見た時です。たくさんの苦労があるから、その感動は誰よりも強いかもしれません。また、見学に来た方から励ましの言葉をかけていただいたり、亜麻に興味を持っていただける方がいるということが励みにもなりますし、嬉しいですよ。同じ亜麻を栽培している仲間や、家族、亜麻公社の皆さんのサポートにも支えられて頑張ってきたかがあります。だからずっと栽培を続けることが出来たと思います。

夢はなんですか？

当別といえば亜麻だと言われるようになって欲しいですね。また、亜麻の可能性を信じて私達と一緒に栽培してくれる生産者が増えてくれると嬉しいです。現在、種子から採れる亜麻仁油は食品として加工されていますが、これからは食用分野に限らず、多様な活用方法について、検討していきたいと思っています。

様々な苦労を経て、亜麻栽培に取り組む津崎さん。他の生産者も同じ思いを持っています。亜麻を多くの方に知って欲しいと始めたイベント「第7回北海道亜麻まつりin当別」が7月13日(日)に旧東裏小学校にて開催されます。畑一面に広がる亜麻を見てみませんか？詳しくは商工課23-3129または、(有)亜麻公社011-731-8588までお問い合わせ下さい。

(6月23日取材)